

それからのホンジュラス（3）

2009年9月23日午後12時現在

ホンジュラス情勢が緊迫しています。情勢をどうみたらよいのか、この1週間の動きを整理しました。

ホンジュラス問題を分析する場合、次の5点がキイ・ポイントと考えます。

- ① 軍事クーデターによる民主的に選出されたセラヤ大統領の国外追放は認められない。
- ② したがって、セラヤ大統領の無条件の復帰が必要。
- ③ クーデター首謀者たちと打倒された合法政権を同等に扱い、喧嘩両成敗とすることは正しくない。
- ④ 問題の解決は、平和的に行われなければならない。
- ⑤ 問題の解決は、あくまでホンジュラス国民が行うもので、国際社会の協力は①－④の支援を行うことである。

しかし、現実政治は、各国の思惑、いろいろな指導者の思惑で様々な行動、発言が行われます。しかし、長い目でみると、時々的情勢でどういう勢力が政権につこうと、この5点の論理は、国民の力によって必ず実現されるものです。

そうした意味からは、筆者は、セラヤ大統領と、ルーラ代大統領の次の発言が、もっとも妥当と考えます。

9月22日、セラヤ大統領、「クーデター派は、国際社会は対話による平和的解決を求めているのに、国民に対し、暴力と弾圧で応えている」。

9月22日、ルーラ大統領、「ブラジルは仲介役を果たすつもりはなく、インスルサ OAS 事務総長の仲介を支持する。60年代と違い、指導者の好き嫌いは、選挙で決めればよいことだ。したがって民主的に選出されたセラヤ大統領を支持するのである」。

9月22日、インスルサ事務総長、「セラヤ大統領の帰国は、平和的解決の良い機会である、クーデター後3カ月経過したが、暫定政府を承認した国は一国もないことを銘記すべきだ」。

これらの発言は、次のクリントン国務長官、アリアス大統領の発言と対照的です。

9月21日、クリントン国務長官、「セラヤ大統領の帰国を歓迎し、双方が話しあいでも平和的に解決することを望む、アリアス大統領の仲介を推奨する」。

9月22日、アリアス大統領、「双方がホンジュラス以外のサン・ホセで会談するよう提案する。合意は修正可能である。双方が交渉することを望まないなら、暴力が増大するだけで、流血をまねくであろう」。

9月15日、セラヤ大統領、「9月末までにはホンジュラスに帰国する。帰国して選挙を

行っても1月27日以降大統領職につくつもりはない」と述べる。

クリントン国務長官、「混乱、政治的意見の相違がホンジュラスを分割していることは憂慮し、悲しいことである。モラサンの精神が、ホンジュラスに民主主義がもどることを助けるであろう」と述べる。

9月16日、アリアス、5名の大統領候補者と会見。4名は、共同コミュニケを発表(1名は棄権)し、仲介を支持すると述べるが、セラヤの復帰を推進せず。

ミチェレッティ、「アリアスは、国際社会の操り人形である。オバマ大統領も、クリントン国務長官もホンジュラスの真実を知らない。アリアスは、あるときは選挙をおこなおうといい、またある時は選挙はだめだという」と非難。

9月17日、アリアス大統領、ホンジュラス大統領選挙の候補者4名（ハム候補を除き）との会談結果について、どの候補者も勝利することのみを考えており、紛争の解決を考えていないと述べる。

ケリー国務省報道官、4人の大統領候補者がアリアス案の受け入れを表明したことを歓迎すると述べる。

反クーデター国民戦線、セラヤ大統領の復帰により、憲法制度が回復し、さらに制憲議会の設置（セラヤが招集するのではない）を目標としていると述べる。

9月18日、反クーデター国民戦線、数千名、TV局チャンネル11とラジオ局ラジオ・グロボの放送（この放送局は反クーデター派の動静を報道）を暫定政府が禁止しようとしたのに反対し、放送を継続させる。

9月19日、ミチェレッティ、「6月28日の事態は、合憲的な政権の継承であった。また、クリントン米国務長官とアリアスは、ホンジュラスの状況を理解してほしい、事態は憲法と法律の枠内で起きたものである」と述べる。

9月20日、パナマ政府、民主的、かつ透明性をもってホンジュラス大統領選挙が行われれば、その結果を受け入れると発表。パナマ政府、仲介役をホンジュラス政府に提案している。

オバマ大統領、ホンジュラスの双方がサン・ホセ合意を受け入れ、セラヤが大統領に復帰し、合法性をもって選挙が行われるように希望すると述べる。

9月21日、

セラヤ大統領、午前中、秘密裏にホンジュラスに帰国、ブラジル大使館に居住を許可される。セラヤ大統領、「対話を直接推進するために帰国した」と発表、国際社会の支援の感謝を述べ、軍部に分別を求め、市民に危害を与えぬよう呼びかける。労働組合、ゼネストをよびかける。数千人の支持者、大統領を擁護するため、ブラジル大使館の周りを取り囲む。

ミチェレッティ、ブラジル政府にセラヤの引き渡しを要求。ブラジル政府、OASと米国

政府に、セラヤ大統領とブラジル大使館員の身柄の安全を保障するように要請。
暫定政府、数百名のセラヤ支持者が街頭で、セラヤ帰国を歓迎するデモを行ったので、外出禁止令を再開。夕方 4 時から午前 7 時まで。
OAS 緊急常任理事会、セラヤ政権の再樹立を満場一致で支持、暫定政権に、セラヤ大統領の安全の保障を、双方にサン・ホセ合意の即時署名を要請。
クリントン国務長官、「セラヤ大統領の帰国を歓迎し、双方が話しあいでも平和的に解決することを望む、アリアス大統領の仲介を推奨すると述べる。

9月22日、早朝、暫定政府側軍隊、重装備の機動隊、ブラジル大使館を取り巻き、徹夜した数百名のセラヤ支持者を催涙ガス・放水車・騒音発生器で攻撃、排除し、大使館を軍隊と警官隊で包囲する。首都 4 地区以上で再集結したデモ隊と警官隊衝突。市内各地で、セラヤ支持者を 300 名以上、大量に逮捕。市内の各地は商店も閉鎖され、閑散とし、交通も途絶えている。暫定政府、外出禁止令を水曜午前 6 時まで延長。

アモリン外相、クリントン国務長官と電話で話しあい、国務長官は、「双方が、穏健で、平和的な対話による解決を望む」と述べる。ルーラ大統領、セラヤ大統領に、「暫定政府軍の大使館への侵入を防ぐため、静かにして、議論をしないように」要請するとともに、「クーデター派が大使館に侵入しないように」要請、また「ブラジルは仲介役を果たすつもりはなく、インスルサ事務総長の仲介を支持する。60 年代と違い、指導者の好き嫌いは、選挙で決めればよいことだ。したがって民主的に選出されたセラヤ大統領を支持するのである」と述べる。

インスルサ事務総長、「セラヤ大統領の帰国は、平和的解決の良い機会である、クーデター後 3 カ月経過したが、暫定政府を承認した国は一国もないことを銘記すべきだ、対話と仲介のみがわれわれがもっている道具であり、軍隊を派遣するわけにはいかない」と述べる。

アリアス、コスタリカ大統領、「セラヤ大統領の帰国でサン・ホセ合意は失敗したとは思わない、他に対案があるのだろうか。双方がホンジュラス以外のサン・ホセで会談するよう提案する。合意は修正可能である。双方が交渉することを望まないなら、暴力が増大するだけで、流血をまねくであろう。セラヤ大統領の帰国の結果、市内で暴力が生じ、外出禁止令が敷かれ、交渉が困難となった」と述べる。

ケリー米国務省報道官、「米国は、双方が平穏にして、暴力を引き起こす行動を取らないように呼びかける」と述べる。

セラヤ大統領、「クーデター派は、国際社会は対話による平和的解決を求めているのに、国民に対し、暴力と弾圧で応えている」と批判。また、同大統領、「米国政府が貿易面でもなんらかの措置を取るように要請する」と述べる。

反クーデター国民戦線、首都に終結し、抗議行動を行うよう、また、各自が自宅近くで抗議行動を行うように呼びかける。23 日午前 8 時に国立教育大学からデモ行進を行うことを宣言。東部のサンタ・バルバラ県では、7000 名が集結、首都に向かう。地方からの抗議デモも首都に到着し始める。